

## プラスチック一括回収に関するモデル事業の報告

令和 6 年 8 月 1 日  
環境資源対策課作成

令和 7 年度から予定の容器包装プラスチックと製品プラスチックの一括回収に伴い、一括回収した場合の収集量や課題等を把握のため、小金沢自治会の協力を得て実証実験について、令和 6 年 6 月及び 7 月の 2 か月実施したため、次のとおり報告します。

## 1 概 要

- (1) モデル事業実施地区  
小金沢自治会（自治会長 管浪幸孝氏）
- (2) 収集時期及び内容  
6 月～7 月（6/5、12、19、26、7/3、10、17、24、31）  
毎週水曜日にプラスチック（容器包装プラスチック＋製品プラスチック【追加】）を一括回収し、組成分析調査し、収集量を把握する。
- (3) 実施方法  
モデル地区内の 14 の収集場所を収集車でプラスチックを回収し、環境資源センターにて、容器包装プラスチック、製品プラスチック及びその他（異物）に分けて、それぞれ品目の確認や計量を行う。

## 2 中間結果

- (1) 調査対象  
小金沢自治会内 14 収集場所
- (2) 調査日時  
6 月 5 日、12 日、19 日及び 26 日並びに 7 月 3 日、10 日、17 日、24 日及び 31 日
- (3) 調査結果

日時	容器包装 プラスチック	製品 プラスチック	その他 (可燃ごみ、禁忌品など)	計
6/ 5	197. 2kg (89. 4%)	10. 8kg (4. 9%)	12. 5kg (5. 7%)	220. 5kg (100. 0%)
6/12	27. 0kg (84. 9%)	2. 0kg (6. 3%)	2. 8kg (8. 8%)	31. 8kg (100. 0%)
6/19	190. 0kg (86. 3%)	9. 2kg (4. 2%)	20. 9kg (9. 5%)	220. 1kg (100. 0%)

6/26	21.9kg (79.4%)	0.5kg (1.8%)	5.2kg (18.8%)	27.6kg (100.0%)
6月合計	436.1kg (87.2%)	22.5kg (4.5%)	41.4kg (8.3%)	500.0kg (100.0%)
7/3	120.0kg (86.2%)	6.4kg (4.6%)	12.8kg (9.2%)	139.2kg (100.0%)
7/10	37.6kg (90.8%)	2.1kg (5.1%)	1.7kg (4.1%)	41.4kg (100.0%)
7/17	210.0kg (88.3%)	10.4kg (4.4%)	17.3kg (7.3%)	237.7kg (100.0%)
7/24	37.1kg (75.0%)	11.6kg (23.4%)	0.8kg (1.6%)	49.5kg (100.0%)
7/31	170.0kg (88.1%)	10.6kg (5.5%)	12.4kg (6.4%)	193.0kg (100.0%)
7月合計	574.7kg (87.0%)	41.1kg (6.2%)	45.0kg (6.8%)	660.8kg (100.0%)
総合計	1,010.8kg (87.1%)	63.6kg (5.5%)	86.4kg (7.4%)	1,160.8kg (100.0%)

※ ( ) 数値は計に対する各比率

・ **容器包装プラスチック及び製品プラスチックの割合**  
(総合計から異物を除き計上)

**容器包装プラスチック：製品プラスチック ≒ 94：6**

### 3 考 察

(1) 毎週収集について

プラスチックの毎週収集について、自治会への説明及びチラシの戸別配布、収集場所の掲示など周知に努めたが、2か月間の結果として、従来のカレンダーどおりの収集日に排出量が多く、追加で設定した収集日は、本来の収集日と比べて約15%に留まっているため、これまでの収集体制が大きく影響されていると思われる。ただし、6月に比べ7月の方が、従来のカレンダーどおりの収集日と追加で設定した収集日の差が少なくなっているため、実施期間が長くなるについてモデル事業が周知されたこと、平均化されたこと等が推測される。来年4月から市内全域で実施した場合にも、市内全域での一括回収を実施した当初は、従来の隔週で出す市民が多いことが想定されるが、次年度からはカレンダー自体を毎週に変更することが

ら、徐々に毎週収集も定着し、収集量も平均化することが想定される。

(2) 容器包装プラスチックについて

容器包装プラスチックは全体で 1,010.8kg(87.1%)が回収されたが、この他に汚れていて再商品化できないため、その他(可燃ごみ)とせざるを得ないものも見受けられた。

なお、毎週収集に変更したことにより、可燃ごみから容器包装プラスチックとして分別されているかについては簡単に比較できないが、一例として、昨年度6月及び7月の容器包装プラスチックの実績を元に小金沢自治会の収集量を推測したところ、今回のプラー括回収の実績が約80kgの増加していた。今後は、他の検証方法も含め来年度からの一括回収に向けて整理したいと思う。

- ・ 隔週収集した場合の小金沢自治会の容プラR6推測値 935.4kg
- ・ 今回のプラー括回収での容プラ収集量 1,010.8kg

(3) 製品プラスチックについて

製品プラスチックは全体で 63.6kg(5.5%)が回収された。

搬出された主な製品プラスチックとしては、ハンガーや計量用スプーン、ストローなど100%プラスチックの製品ばかりで、一部金属を使用しているシャーペンやおもちゃなどは、ほとんど見受けられなかった。

(4) その他について

その他については、大半が可燃ごみだが、汚れて再商品化に向かない容器包装プラスチックやペットボトルの混入も見受けられた。

ペットボトルについては、ラベルや蓋がつけたままの排出されたものもあったため、新たに収集場所へ分別の啓発看板を設置した。(ごみ分別アプリ「さんあ〜る」にて全市民への周知も実施。)

なお、捨て方などから同一の人が排出していると思われるので、住民に対する周知方法について工夫が必要と思われる。

#### 4 モデル事業結果を基にした市全体の効果

(1) 可燃ごみへの影響

可燃ごみとして焼却処理をしていた製品プラスチックが分別されることにより可燃ごみが減少することは元より、容器包装プラスチックについても、今回の結果から同地域の前年同月推測量に比べ、収集量が微増したため、毎週収集の実施により分別が促進されるので、可燃ごみは減少すると考えます。

**可燃ごみの減少 約 180 t**

(製品プラスチック 約 100 t + 容器包装プラスチックの増加 約 80 t)

※ 年齢区分や家族構成などの地域特性により変更するため、今回のモデ

ル事業に対する推計数値です。

(2) 予算への影響

毎週収集に変更することによる運搬委託、製品プラスチックの資源化のための処理量増加のための中間処理費及び再資源化費用が増額されますが、特別交付税措置により歳出を抑えました。

歳出増額約 36,500 千円－歳入約 14,300 千円 = 約 22,200 千円の増額

※ この他に資源物を隔週に変更すること等により経費の増加が見込まれます。